

部族民通信

YOUTUBE

神話学 7

^ 3

人類学

講座

蜜から灰

2023年10月~24年7月期


部族民通信 人類学講座 レ
ヴィストロースを読む

神話学 Mythologique

部族民通信 SNS活動
ホームページ WWW.tribesman.net
ブログ <https://blog.goo.ne.jp/tribesman>
XTwitter部族民通信@9pccwVtW6e3J3AF



Claude Lévi-Strauss
1909~2009
(Bororo族調査時、1936年)



Mythologique
神話学 Du Miel
aux Cendres 蜜
から灰へ 3

	誰が何に疎外 されていたか	出会い
Maba ミツバチ の女王 M233	蜜狩人が 蜜に	蜜狩人が 蜂の巣穴に 女王を見た
Simo ミツバ チの婿 M235	兄弟が獲物に	Simoが見初 めた娘に添い 寝した
Adabaカエルの 婿	同上	Adabaが肉を 望む娘に獲物 を捧げた

前回（変奏曲
第一部）
の
まとめ 1

前回（変奏曲
第一部）
の
まとめ 2

Sonata 第一部 3の変奏曲
主題
個と個の出会い

旋律

個がある特定のモノから疎外される
別の個がそのモノを補給する

コーダ

故に (Polaire) 破綻する

Sonata 第二部 3の変奏曲

主題

個と不定個体の出会い

旋律

個はモノを特定しない
必ずモノ（代替）を得る

コーダ

宇宙森羅の秩序 (Cyclique)

蜜から灰へ 第3変奏曲 M238 折れている矢 la flèche brisées Warrau族 144頁

不器用な夫、狩りに出ても獲物を持ち帰れない。ある日、ばったり出会ったジャガーに奇策（巨木の周りで追いかけて）を弄し、見事に召し捕って運命が変わる。義父は残っていた娘を贈るし村長就任となった。しかし男は満足しない。《 Mais l'homme voulait aussi être consacré grand chasseur de toutes les autres espèces d'animaux 》どんな種類の動物をも狩れる最高狩人に上り詰めたい。

Wauuta（木に住むカエル、動物界の王）に教えを乞うと決め、洞の下で一晩中泣きながら訴えた。彼には作戦があった。《 car il savait fort bien que s'il pleurait longtemps, elle (Grenouille) descendrait comme une femme qui commence par se refuser mais qui, devant ses larmes, finit par le prendre en pitié 》「カエルも女と同じ、最初は断るけれど、長いこと訴えれば、涙に負けて情をかけてくれるさ」木の根本でブツブツ呟いている男の眼の前を、

« Une troupe d'oiseaux rangés par ordre de taille, du plus petit au plus grand. L'un après l'autre, ils picotèrent ses pieds à coups de bec pour rendre habile à la chasse. Sans qu'il le sût, Wauuta commençait à s'intéresser à lui. Après les oiseaux vinrent les rats par l'ordre de taille, suivi par l'acouri, le paca, le cervidé, le cochon sauvage, puis le tapir. En passant devant l'Indien chaque animal tirait la langue et léchait ses pieds pour lui donner bonne chance quand il chasserait l'espèce particulière à laquelle l'animal appartenait. Ainsi firent ensuite les félins du plus petit au plus grand, et finalement les serpents qui défilèrent en rampant »

鳥の一団が目の前を通る。大きさの順に小さい鳥から、大きな鳥に、一羽また一羽。いずれも男の前で止まり足を嘴でつつき、くつろぎ姿勢を見せた。この格好が矢を射かけるに最もよい瞬間なのだ。鳥の次はネズミ、それらも種別に小さい種から順に大きく行列をなした。次がacouri (不詳) pacaと続いた。獣達は男の前で座こんで、舌をベロリと出して毛繕いを始めた。この格好も狩りに絶好のくつろぎ姿勢である。動物の種別、大きさ順の行進は一晩中続き大蛇がノシと這い最後を締めくくった。

« Un être inconnu s'approcha. C'était Wauuta qui portait
une flèche d'apparence bizarre »

見慣れぬ人物が近づく、不格好な矢を背に負う

彼がWauuta樹棲のカエル、動物界の王

狩りの秘法を伝授する。

« Regarde plutôt ton bras, depuis l'épaule jusqu'à la main, le bras était couvert de moisissure et l'autre se trouvait dans le même état. L'homme racla toute la moisissure, car c'était la cause de sa malchance. Sur ce Wauuta lui proposa d'échanger leurs flèches ; la sienne était brisée en plusieurs tronçons et réparé. En l'essayant, l'homme réussit pourtant à atteindre une fine liane qui pendait loin de là. Wauuta lui expliqua que, dorénavant, il lui suffirait de tirer en l'air n'importe où ; et l'Indien s'aperçut qu'en tombant, sa flèche atteignait toujours quelques gibiers : d'abord des oiseaux, en allant du plus petit au plus grand, puis un rat, un accouri jusqu'au tapir ; des félins, des serpents par ordre de taille, exactement comme les animaux avaient défilés au cours de la nuit »

汝、おのが腕をじっくり見よ。肩から手先まで、右腕左腕とも、苔がびっしり生えていた。矢が正しく飛ばない原因は手入れ悪い腕の苔だった。次にWauutaは矢を交換しようと言い出した。受け取ったWauutaの矢は曲がっている、幾節にも継ぎ当てが見えた。それでも男はこのオンボロ矢を引いて射かけ、遠くに垂れるツタになんとか当てた。Wauutaは、その射掛けでも当るかもしれない、しかし違う。獲物への直接の狙いを否定した。

「どこでもよい、矢を空に放てば獲物に当たる」

さて、空中狙いを実践してみると、ボロ矢ながら下降する際にたしかに何がしかの獣の背を抜く。まず鳥類、小さな鳥から大きな鳥に。そしてネズミ、Acouri、順に大きくなりバクにまで。次に猫科、蛇、小から大へと獲物がつながる。その順列は昨夜に森で、男が目撃した「百獣夜行」の行列の様だった。

Wauutaはこれからもこの矢を狩りに用いを許される

一つの条件を課した「矢を誰から貰ったと誰にも教えてはならぬ」男はどんな獲物も狩りとれる名人と賞賛された

秘伝を盗もうと隣人が酒をしこたま振る舞うと、男が酔っぱらい矢の由来を漏らした

以来、男は不器用狩人に戻って他の者も運に見放されて、狩りとは手ぶらで (bredouille) 帰るが通例になったとさ

秘密の伝授（神秘の矢）

一時の楽園

「秘密を」漏らした、狩人は楽園から追放

第二部3曲の嚆矢

第二部の変奏他の2曲は ;

M236 (本書に引用されない。狩人が獣に反逆される。俗神が助け合わせて空に矢を放つ技法を教えた)

M239 (引用されない。狩人とジャガーが会話する。

矢を指しジャガーは「何を狩るのか」尋ねる。

狩人は「ネズミ、モルモット…」など小物を引き合いにだす。

ジャガーのさらなる質問で徐々に大型獣に移っていき、最後にはジャガーしか残らない。

狩人は機転を利かせて「Tapirバク」と答えたら、ジャガーが大笑いして狩人は逃げられた。

(別のvarianteではジャガーと口に出してしまい、食べられた)

M238の伝えかけ ;

百獣夜行の行進。動物の大きさ、小から大へと正しく続く自然の連続安定を人に見せている。

連続はなぜ安定するか。これはSystème cyclique（循環）であり、自然界を守るため抗争を避けるため循環を守っている。

Polaire(対極、第一部の変奏3曲の主題) はCycliqueに対照される。M236がその濫觴を語り、M239で動物界の秩序が描写され、

M238で動物王者のカエルWauutaが狩人にこの秩序の様を見せつけ

L'antinomie initiale, qui était celle inhérente à la fatalité (soit négative, : termes rapprochés par hasard, qui n'auraient pas dû l'être ; soit positive : chasse magique où le tueur est atteint toujours, mais par hasard, un gibier qu'il n'avait pas l'intention particulière de tuer) se trouve ainsi surmonté grâce à l'émergence, en réponse à une intention subjectivement aléatoire, d'une nature objectivement ordonnée.

L'analyse des mythes confirme que, comme nous l'avons suggéré ailleurs, la croyance dans l'efficacité de la magie présuppose un acte de foi dans l'ordre du monde. (page 149)

L'antinomie initiale, qui était celle inhérente à la fatalité (soit négative, : termes rapprochés par hasard, qui n'auraient pas dû l'être ; soit positive : chasse magique où le tueur est atteint toujours, mais par hasard, un gibier qu'il n'avait pas l'intention particulière de tuer) se trouve ainsi surmonté grâce à l'émergence, en réponse à une intention subjectivement aléatoire, d'une nature objectivement ordonnée. L'analyse des mythes confirme que, comme nous l'avons suggéré ailleurs, la croyance dans l'efficacité de la magie présuppose un acte de foi dans l'ordre du monde. (page 149)

訳 : (自然と文化の出会いには) そもそも二律背反が隠れている。
同じ出会いでも否定的か肯定的結末、いずれかの宿命に陥る。否定的には：2者が偶然に出くわす、それらは然るべく存在にはなりえない（その場aléatoireの場、に留まれない）。

肯定的には：魔法の矢を放つ狩人は必ず何がしかの獲物を狩ることになる。ここにも偶然（par hasard）がある、そして狩人はその獣を殺そうとする個別的意思を持ち合わせない。神話群（M236~239）をかく解釈することで、「客観的に秩序だった自然から、主観的には偶然となる意思への回答」がここ（二律背反）に宿る。これら神話の分析から、（先住民の）魔術の有効性を信仰する前提に、世界秩序への信仰があるのだと理解できる。

Sonata 第二部 3の変奏曲

矢を空に放つ

矢はいずれかの獲物を射抜く

矢と獲物の出会いは偶然

(Par Hasard)

偶然に2の語が用いられる « aléatoire » « par hasard »

対極する出会いが（主体的にaléatoire で、この意味は一旦は対極構図に収まるが破綻する）。魔術による狩りで矢を空に放つ。

何がしかの獲物に偶然に« par hasard » 当たる。

その偶然が自然の仕組み（ordre、循環）と知るカエルがヒトを諭し、折れている矢を仕組んだ。

Sonata 第一部 3の変奏曲

個と個がであう

個は特定のモノを得る

個とモノの出会いには偶然

(Aléatoire)

Sonata 第二部 3の変奏曲

矢を中空に放つ

矢はいずれかの獲物を射抜く

矢と獲物の出会いには偶然

(Par Hasard)

神話学 蜜から灰へ 破局か融和か 変奏曲第二部

	誰が何に疎外 されていたか	出会い	対立・循環 Polaire/Cycle	その後	結末	偶然か計画か Aléatoire/ Programmé
Maba ミツバチ の女王 M233	蜜狩人が 蜜に	蜜狩人が 蜂の巣穴に 女王を見た	Polaire 蜜と狩人 Mabaは Cycliqueで蜜 を生成)	本名を明かし た	楽園が消滅	Aléatoire (Polaire est subjectiveme nt aléatoire P148)
Simo ミツバ チの婿 M235	兄弟が獲物に	Simoが見初 めた娘に添い 寝した	Polaire Simoは Cycliqueで獲 物を獲得	義妹が水かけ した	同上	同上
Adaba カエルの 婿	同上	Adabaが肉を 望む娘に獲物 を捧げた	Polaire 兄弟の狩の技 法、Adabaが 訂正	妻が水かけし た	同上	同上

神話学 蜜から灰へ 破局か融和か 変奏曲第二部

	出会い	対立・循環 Polaire/Cycle	その後	結末	誰が何に疎外されていたか	偶然か計画か Aléatoire/ Programmé
Wauuta カエルの王様 M238	狩人の懇願	対立 (ジャガーと 追いかけて こ) 循環 (百獣夜行)	百獣を狩る 狩人王者	矢の魔法は消 える	狩人が動物界 の連続に	偶然 par hasard
M236 (本文は引用 されない)		対立 (狙って 矢を放つ) 循環 (空に矢 を放つ)	殺人鳥から報 復を受ける	矢を空に向け てからは平安 に狩猟できる	狩人の宇宙森 羅への知識	
M239 (本文は引用 されない)		対立、ジャ ガーに何を狩 るのか問われ る	最後にバクを 拳げる	ジャガーから 逃げおうせる		



変奏曲の
一部も二
部も偶然
の出会い
を主題に
している
のじゃ

出会いには

Polaire 対極の 出会い
個と個の出会いと

Cyclique 周回の 出会い
個と不定個の出会い

があるのじゃ

恐れ入りま
した。部族
民の完敗で
す





Mythologique
神話学 Du Miel
aux Cendres 蜜
から灰へ 3 了